

古い狐のうた

詩：永瀬清子
高橋悠治

1 *senza tempo*

Baritone Sax
(sounds as written)

Voice

Piano

2

お お あ の と き 私 は ど ん な に 見 え た ?

Pno.

3

B. Sx

か ぜ の す き と お っ た あ の 笹 っ 原 で

古い狐のうた

4

B. Sx

Pno.

あ そ ぶ 小 狐 の よ う に あ ど け な く 見 え た ？

5

B. Sx

Pno.

それとも 光っている ポプラのように

6

B. Sx

Pno.

絶え間なく金 の 切り口を ばらま いて い た ？

7

Pno.

古い狐のうた

8

B. Sx

parlando

私は だんだん か わったのですよ—

9

B. Sx

parlando

、 いまの私は 毛の 切れた 古い狐 ですよ

Pno.

10

B. Sx

cantando

世 の 中の 霜 を あ び て

Pno.

古い狐のうた

11

B. Sx

Pno.

私は どん どん 葉を落とし たの ですよ

12

B. Sx

13

Pno.

わたしは いま ふしの た かい 指 で

14

Pno.

がっ しり 握ろ うとしている 自分の いのち

15

Pno.

荒波のなかでもぎとられまいとしている 私の ころ

古い狐のうた

16 ま る で いわにとりついている の り のよう に

17 私は 打 ち ゆさぶら れ てい るの です よ

Pno.

18

B. Sx

19

B. Sx

parlando

でも 私はじつと見ています

20

B. Sx

parlando

皺が レールのよう に きざまれた 額の 底で

21

B. Sx

なおも 見逃すま い と 見て います

古い狐のうた

22

cantando

Pno.

とどまるものがない 世のなかで

23

Pno.

わたしだけがあたらしい はずはなく

24

B. Sx

Pno.

わたしだけがそのまの筈はない

25

B. Sx

Pno.

にぎろうとしていたのは

いわではな

く

古い狐のうた

26

B. Sx

Pno.

うつろなもの かたち ないもの それは つれない と き と いうもの

27

Pno.

28

B. Sx

Pno.

いまはもう 「かたち ないもの」の ちいさな つ つみをさげて

29

B. Sx

Pno.

もうじき か ど を ま が り ま す

古い狐のうた

30

老 婆 に つ い て く る の は や ど な し の や せ 犬 だ け

Pno.

31

B. Sx

Pno.

32

B. Sx

で も 思 う の で す

33

あ の 時 わ た し は あ な た に ど う 見 え た ?

Pno.

34

B. Sx

あ の か ぜ の す き と お っ た な つ の 日 に

古い狐のうた

35

B. Sx

Pno.

わたしは 笹っ ぱらで遊んで いた 小ぎつねのよう だった？

36

B. Sx

Pno.

金の 切り口を持って 光 を ばらまいている

37

B. Sx

Pno.

も しかしたらあの ポ プ ラ の木の よう だっ た？

古い狐のうた

38

B. Sx

Pno.

あなたにおきぎしたい の です

39

parlando

それ だけ が「か た ち な い も の」の ほ ん と の な か み

Pno.

40

cantando

あ の と き の い の り あ の と き の の ぞ み

41

B. Sx

parlando

わ た し の す べ て の 値 打 ち の な か み な の か も し れ な い の で す

Pno.

古い狐のうた

古い狐のうた

永瀬清子

おおあのとき私はどんなに見えた？
風のすきとおったあの笹っ原で
遊ぶ小狐のようにもあどけなく見えた？
それとも光っているポプラのように
絶え間なく金の切り口をばらまいていた？

私はだんだん変わったのですよ
いまの私は毛の切れた古い狐ですよ
世の中の霜をあびて
私はどんどん葉を落としたのですよ

私はいま節の高い指で
がっしり握ろうとしている自分の命
荒波の中でもぎとられまいとしている私の心
まるで岩にとりついていて海草（のり）のように
私は打ちゆさぶられているのですよ

でも私はじっと見えています
皺がレールのようにきざまれた額の底で
なおも見逃すまいと見えています
とどまるもののない世の中で
私だけが鮮（あた）らしい筈はなく
私だけがそのままの筈はない
握ろうとしていたのは岩ではなく
うつろなもの形ないもの それはつれない時というもの

いまはもう「形ないもの」の小さな包をさげて
もうじき角を曲がります
老婆についてくるのは宿なしのやせ犬だけ

でも思うのです
あの時 私はあなたにどう見えた？
風のすき通ったあの夏の日に
私は笹っ原で遊んでいた小狐のようだった？
金の切り口を持って光をばらまいている
もしかしたらあのポプラの木のようにだった？
あなたにおききしたのです
それだけが「形ないもの」のほんとの中味
あの時の祈り あの時ののぞみ
私のすべての値打ちの中味なのかもしれないのです